

情報通信審議会情報通信技術分科会
航空・海上無線通信委員会（第1回）会合 議事要旨（案）

- 1 日時
平成23年11月4日（金）14時00分から15時00分
- 2 場所
総務省8階 第1特別会議室
- 3 出席者（敬称略、順不同）
 - （1）構成員
三木 哲也（主査）、井手 麻奈美、伊藤 好、今宮 清美、小瀬木 滋、門脇 直人、庄司 るり、中村 勝英、林 尚吾、山崎 保昭、山梨 雅彦
 - （2）オブザーバ
岩田 康広、大川 努、狩俣 恭太郎、沢柳 雅哉
 - （3）事務局
衛星移動通信課 巻口課長、菅田企画官、保坂課長補佐
- 4 議事概要
議事に先立ち、巻口衛星移動通信課長より挨拶、構成員及びオブザーバの紹介、配付資料の確認が行われた後、以下の議題について審議が行われた。
 - （1）委員会運営方針（案）について
事務局から資料1-1に基づき「運営方針」について説明が行われ、特段質疑応答はなく、運営方針が承認された。
 - （2）審議開始について
事務局から資料1-2に基づき「船舶用固体素子レーダーの技術的条件の審議開始」について説明が行われた。
 - （3）審議の進め方（案）について
事務局から資料1-3に基づき「審議の進め方（案）」について説明が行われ、特段質疑応答はなく、審議の進め方が承認された。
 - （4）固体素子レーダーの概要について
日本無線株式会社 沢柳氏から参考資料1-2及び資料1-4に基づき「固体素子レーダーの概要」について説明が行われた後、以下の質疑応答が行われた。

今宮委員 資料1-4の4ページにレーダーの主な仕様が記載されており、送信周波数は9410MHz、9430MHzと二つの周波数が記述されているが、これは短パルスと長パルスの周波数2波を順番に送信するということか。

沢柳氏 そのとおり。

今宮委員 それは近距離をカバーするためのものか。

沢柳氏 そのとおり。長パルスを送信するので、近距離レンジがマスクされてしまうのをカバーするため、短パルスを近距離探知用に送信するというシステムである。

今宮委員 2波の差が20MHzである根拠は何か。

沢柳氏 本来の目的は狭帯域化であるので、複数のCHを持つことは目的からすると若干外れてしまうことになるが、お互いの周波数の相関をなるべく取りたくないということで、20MHz離さなければならなかったというところ。20MHzよりも離すと、探知性能の面からは良いが、狭帯域化からは外れてしまう。20MHzよりも近づけてしまうと、お互いの送信の相関が取れてきてしまい、あまりアイソレーションがよくないものとなる。

岩田氏 SARTとの試験は特段行っていないのか。

沢柳氏 行っていない。

岩田氏 メンテナンスが楽になるとのことだが、固体素子レーダーの場合に定期的な保守が必要な部分というのはあるのか。

沢柳氏 完全にメンテナンスフリーになるということではない。たとえば空中線のモーター等は交換が必要である。それ以外に、定期的な、マグネトロンと同程度の数千時間で交換が必要であると始めから定義されるような部品はない。マグネトロンの交換がボトルネックになっていたところである。

(5) その他

事務局から今後のスケジュールについて説明が行われ、3週間意見聴取の募集を行った後、12月上旬に委員会を開催する予定であり、詳細については、別途事務局から連絡する旨説明があった。

<配付資料>

- 資料 1-1 航空・海上無線通信委員会運営方針（案）
 - 資料 1-2 情報通信審議会情報通信技術分科会（第82回）資料
 - 資料 1-3 「船舶用固体素子レーダーの技術的条件」に関する審議の進め方（案）
 - 資料 1-4 「固体素子を用いた船舶用9GHz帯レーダーの研究開発」報告書の概要
-
- 参考資料 1-1 航空・海上無線通信委員会構成員名簿
 - 参考資料 1-2 固体素子レーダーの概要